

日本看護歴史学会第 31 回学術集会のご案内

日時：2017 年（平成 29 年）8 月 18 日（金）・19 日（土）

会場：東京慈恵会医科大学医学部看護学科（東京都調布市）

テーマ：看護の政策決定過程の検証—歴史から看護のエビデンスを探る—

大会長：田中 幸子（東京慈恵会医科大学医学部看護学科）

大会長挨拶：

日本看護歴史学会は平成 29 年で、30 周年を迎えます。この記念すべき年に、東京慈恵会医科大学において学術集会を開催することとなりました。

看護の史実を紐解いて、その時何があったのか、誰が何をしたのか、ということは物事が決まる過程を決定づける重要な真実（エビデンス）を明らかにすることを意味します。つまり、史実を紐解き、人々の目に留まるように可視化することが政策過程の分析には必要であり、歴史研究はそれに相応しい研究手法といえます。

今回は、看護の政策過程を振り返るために、准看護師（師）制度をテーマにシンポジウムを開催します。また、歴史を記憶として人々の中に留める方法として、最先端のデジタルアーカイブスの手法に関する特別講演、さらに最も重要でありながら、看護歴史の研究手法としてはあまり用いられてこなかったオーラルヒストリーの研究手法の教育講演を予定しています。同時に 30 周年を記念して、学会発起人がどのような思いでこの学会を立ち上げられたのか、先人の看護歴史にかけける思いを理事会セッションとして開催し、看護歴史を探究する意義を参加者の皆様と共有してまいりたいと思います。

皆様のご参加を心よりお待ちしております。

日本看護歴史学会第 31 回学術集会長

田中幸子

プログラム（予定）

■ 会長講演：「看護の政策過程 — 占領期の看護改革を振り返って—」

■ 特別講演：「データを紡いで社会につなぐ、記憶を伝えるデジタルアーカイブス」

渡邊 英徳先生（首都大学東京システムデザイン学部准教授）

■ シンポジウム：「准看護師（師）制度は何をもたらしたのか」

「准看護師問題調査検討会を振り返って」 似田貝香門先生（東京大学 名誉教授）

「保助看法制定以降の准看護師制度の検討」 野村陽子先生（岩手医科大学 教授）

「准看護師(師)制度問題を考える」 林 千冬先生（神戸市看護大学 教授）

指定討論者：中島幸恵氏（全国准看護師看護研究会 会長）

■ 教育講演 I：

「オーラルヒストリー・メソッドが拓く歴史研究の可能性」 梅崎 修先生（法政大学キャリアデザイン学部教授）

■ 教育講演 II

「メアリー・E・リードと慈恵の初期看護教育」 芳賀佐和子（東京慈恵会医科大学客員教授）